

2024 年度

ケヤキッズベビールームの自己評価

【自己評価結果の公開について】

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。

この事を踏まえ、ケヤキッズベビールームではこれに基づき検討し、保育の質の向上を図る為、保育所及び保育士の自己評価を実施しました。今後はこの結果を踏まえ、次年度の保育計画・保育内容等の改善に活かし、改善していく事で、保育園の専門性・組織力を高め、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより良く深まるよう努めて参ります。

1、保育目標

心身共に健やかな生活を送る中で、周囲に対し感謝の気持ちを持つ

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児
ね ら い	・保健的で安全な環境の中で、一人ひとりのこどもが周囲から受け止め、認められながら、自信・安定感・信頼感を感じ将来にわたる心の基盤を築く	安心できる保育者との関係を基盤として自発性、探索意欲が高まり生きていくうえで必要な数多くの行動を身に付けていく	自立心を大切にしながら、こどもの関心や探索意欲を高め、そこで得られた喜びや感動を保育者やこども同士で共感することで自信に繋げる

2、1 年間の取り組み状況

・園内研修

2023 年度自己評価の振り返りから保育の質の見直しや、こどもが育っていく環境構成に着目をして主体的に遊べる環境に対して園内研修を行いました。

・姉妹園との学びの場

姉妹園との公開保育や交流会を通して、共に保育の学びを深める機会となりました。
小規模園での同年齢のこどもということで、お互いの保育の悩みや助言等をするより良い保育を共に考える時間となりました。

・一斉制作（廃材遊び）

一人ひとりのイメージを大切に、遊びの時間に廃材を中心とした遊びの時間を作りました。多くの廃材がある中、個々の自由な発想でこどもたちは箱を積み上げたり、身体の一部につけてみたり、テープや紙を使って個々でイメージする作品を作る時間となりました。

・ FamilyConcert

今年度初めての開催となりましたコンサートは、こどもたちは日頃から音や音楽に触れる機会となり、こどもも保護者の方と共に楽しい時間となるように企画し、親子で楽しんで参加できる会でした。

・ 園での豊かな心をの育みを感じ収穫を楽しむ

ネイチャーラボが中心となり、1年を通してこどもたちは野菜の苗を植えて水やり等をしてながら野菜が育つ楽しさや収穫体験を体験する機会となりました。

・ 食育計画

計画に基づき、こどもたちの園での食について様々な視点から関われる食育活動に取り組んできました。

・ 年間保健計画

こどもの健康を守り、こども自身が健康で過ごすための力を身に付けていくことが求められるため、年間保健計画を通して園だよりでの保健コーナーでこどもの健康や病気についてより詳しくお伝えしてきました。

・ こどもの園での様子を園だより

こどもの主体性を大切に、保育を行う中で環境構成を見直した際は保護者に園だよりやアカナコカーナで保護者の方に直接お伝えしてきました。

・ アカナコカーナ

日々の子育ての悩みを保護者の方と共にああかな？こうかな？と考えてお話をする中で、保護者の方がリフレッシュできるよう取り組んできました。毎回のワークショップでは今年度こどもたちが大好きな絵本をテーマに、保護者の方が作りその後こどもが描いたり作品を作り園に飾ったり、3園合同のあんべでの作品展に展示を行いました。リラックスして園での様子をお話したり、動画にして見ていただいたりしました。

回数を重ねるごとにご両親揃っての参加もあり、毎回ワークショップを楽しみにしていましたとお声も聞け、毎回充実した時間の中でお話もできました。

また保護者の方もご家庭でのお子様の様子を詳しく伝えてくれる機会となりました。

・自己評価振り返り

7月・1月の年2回自己評価を実施し、園長との面談にて保育の振り返りの中での悩み、個々の保育者が保育に対しての考えを聞く時間となり、両者にとってより良い時間となりました。不定期ではありましたが、個々とのコミュニケーションを大切にするために、自己評価等以外の時も全体・個々との時間を持つようにしました。

・避難訓練の見直し

事前に訓練内容を知らせずに行うことで、いつ起こるかわからない災害等に一人ひとりがどのように行動すべきか訓練の大切さを理解し取り組めるよう毎回考えながら行いました。実際に予定を知らずに行うことで、急な対応でも個々で行動や指示をしたり、様々な想定の中での訓練によりこどもの命を守るための行動を、訓練を通して大切と感じました。

・研修報告書の見直し

研修に参加するうえで、報告書・会議での報告を行う中で、報告書を充実させるために園で改善すべき点を追加しました。

・普通救命講習

昨年度動画での講習を受け、その後消防署の方に成人の心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の使用法を学び、職員全員が受講し、普通救命講習修了書を頂きました。

今年度は理事長・統括園長が、応急手当普及員としてとして、5施設の職員全員が受講することができ、良い学びの時間となりました。

3、1年を振り返って

今年度は保育者が個々に学ぶ年となりました。3園でのラボ活動を通して、保育者の連携も強くなり個々に得た知識をみんなで共有する場もあり、保育者の質の向上にもつながったと感じました。園として保育者の話す時間を話し合いの場において、コミュニケーションの大切さを改めて感じました。人には意見があることを知ることや、保育には正解はないこと、必ずしも結論を出すべきではないことも重要だと思います。保育の経験が浅い人、みんなの前での発言することが苦手な人などみんなで話しやすい環境を作ることも大切と感じました。今後もコミュニケーションを含め、話し合いの在り方、話し合いを実践する環境作りをどのように作るのか課題となります。保育での小さな気づきを話し合える関係性を作り、コミュニケーションの中で思ったこと・感じたことを共有できる園を目指し、保育者の個々の成長に繋げていきたいです。